

平成 29 年 7 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 J M C
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 渡 邊 大 知
 (コード：5704 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 管 理 担 当 取 締 役 森 谷 知 子
 (TEL. 045-477-5751)

業績予想の修正に関するお知らせ

株式会社JMC（以下、「当社」という）は、平成 29 年 2 月 13 日に公表致しました平成 29 年 12 月期（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）の第 2 四半期（累計）及び通期に関する業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせ致します。

記

1. 平成 29 年 12 月期 第 2 四半期（累計）業績予想数値の修正（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 850	百万円 73	百万円 77	百万円 51	円 銭 19.92
今回修正予想 (B)	717	3	9	4	1.65
増 減 額 (B-A)	△132	△70	△67	△47	
増減率 (%)	△15.6	△94.9	△87.6	△91.7	
(参考) 前期実績 (平成 28 年 12 月期第 2 四半期)	741	86	126	87	58.80

(注) 1. 当社は、平成 28 年 8 月 12 日付で普通株式 1 株につき 400 株の株式分割を行っておりますが、平成 28 年 12 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益を算出しております。

2. 平成 29 年 12 月期 通期業績予想数値の修正（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 1,873	百万円 221	百万円 224	百万円 150	円 銭 57.69
今回修正予想 (B)	1,692	10	15	10	4.21
増 減 額 (B-A)	△181	△210	△209	△139	
増減率 (%)	△9.7	△95.4	△93.0	△92.7	
(参考) 前期実績 (平成 28 年 12 月期)	1,477	139	172	119	75.73

(注) 1. 当社は、平成 28 年 8 月 12 日付で普通株式 1 株につき 400 株の株式分割を行っておりますが、平成 28 年 12 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期純利益を算出しております。

3. 修正の理由

(1) 売上高

当社は、製造業を中心に幅広い業種の試作品から最終製品づくりをトータルサポートすることを主たる業務とし、「3Dプリンター出力」、「鋳造」、当期に鋳造事業から分離した「CT」の3事業を有しております。

当社は、売上高予想の策定を前期までの安定顧客への販売実績をベースに、新たに当社営業担当者が入手した各顧客の開発計画や開発案件の可能性等に関する情報を加味して、その結果予想される販売件数、販売金額を積算する方法で行っております。また、新規顧客の売上高予想は、既に引き合いのあった顧客に提示している見積書のうち、受注確度の高い見積金額を顧客毎に積み上げて策定している他、直近12カ月間にWEBサイトや展示会で獲得した新規顧客数や売上金額の月額平均を業種毎に見込んでおります。従いまして、各顧客を取り巻く環境変化等が生じた場合、当社の売上高に直接影響が及ぶ可能性があります。

平成29年12月期第2四半期累計期間における当社の売上高は、上述の策定方法にて当初850百万円を予想しておりましたが、その後の環境変化により15.6%下回る717百万円（前年同四半期比23百万円減、3.1%減）となる見込みであります。

また、平成29年12月期通期における売上高については、当初1,873百万円を予想しておりましたが、平成29年12月期第2四半期累計期間の状況及び下期（平成29年7月1日～平成29年12月31日）の販売計画から、9.7%下回る1,692百万円（前年通期実績比214百万円増、14.5%増）となる見込みであります。

各事業における平成29年12月期第2四半期累計期間の売上状況及び下期の見通しは次のとおりであります。

① 3Dプリンター出力事業

平成29年12月期第2四半期累計期間における3Dプリンター出力事業では、3Dプリンターを用いた試作サービスにおいて、3Dプリンター装置の普及に伴う各社の試作品内製化等の需要動向のトレンドを正確に売上高予想に反映できず、結果的に売上高予想が高い設定となったため、新規顧客への売上高が当初予想を5百万円下回りました。

また、既存顧客においても、同様に3Dプリンター装置の普及における需要動向や医療分野におけるISO80369規格改定に伴う試作・開発の手控え等の影響を正確に売上高予想に反映できず、売上高が、当初予想より42百万円減少いたしました。

この結果、当期第2四半期累計期間の3Dプリンター出力事業における売上高は、当初243百万円（前年同四半期比34.6%増）の予想でしたが、20.0%下回る194百万円（前年同四半期比7.7%増）となる見込みであります。

なお、当社製品である心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID（ハートロイド）」の国内・海外展示会への出展等を含む積極的な営業活動が奏功し、「HEARTROID（ハートロイド）」は、特に海外からの問い合わせや引き合いが増加傾向にあります。

下期（平成29年7月1日～平成29年12月31日）においては、3Dプリンター試作サービスのWEBによる各種拡販キャンペーンの実施、営業人員の拡充、医療機器の取扱方法を習得するための各種医療シミュレーターの開発、「HEARTROID（ハートロイド）」の国内外代理店の拡充等、多角的な営業活動を進めて参ります。また、2017年7月12日付で高度管理医療機器等販売業および貸与業の許可を取得したことから、医療機器の販売を進め、更には医療機器製造販売業を取得している企業と連携することで、製品開発から製造・販売までのビジネスモデルの構築を計画しております。これらの施策により、当初予想の下期売上高の確保に努めて参ります。

しかしながら、平成29年第2四半期累計期間の減収を補うまでには至らない見通しであり、通期の売上高は、当初472百万円（前期比22.9%増）を予想しておりましたが、10.3%下回る423百万円（前年比10.3%増）となる見込みであります。

※ISO80369規格：国際標準化機構（International Organization for Standardization）によって定められた、医療機器の品質マネジメントシステムに関する規格であり、『医療機器-品質マネジメントシステム-規制目的のための要求事項』の規格のこと。

② 鋳造事業

平成29年12月期第2四半期累計期間における鋳造事業では、当社の強みである「短納期」、「高品質」を訴求した営業活動を展開しました。新規顧客においては、特定の新規顧客の売上高予想を高く設定し、営業力を集中しましたが、競争力不足から、受注につながらなかった案件が複数あり、当初の売上高予想を達成することができませんでした。

既存顧客においては、前期までの販売実績をベースに売上高予想を算出しましたが、製造の不具合から再作を発生させてしまったことによる機会損失等により、売上高予想どおりの受注獲得ができませんでした。

特に、自動車関連顧客から売上高予想どおりの受注ができず、当初売上高予想より68百万円減少いたしました。

自動車関連以外の顧客においても、複数の顧客から売上高予想どおりに受注獲得ができず、また、受注獲得案件も想定の上注金額を下回るケースが多く、当初の売上高予想より 41 百万円減少いたしました。

この結果、平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間の鑄造事業における売上高は、当初 559 百万円（前年同四半期比 11.5%増）を予想しておりましたが、19.8%下回る 449 百万円（前年同四半期比 10.6%減）となる見込みであります。

下期（平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）においても、競争力不足による受注減や再作を発生させてしまったことによる機会損失等の影響により、上期と同様に需要低下が継続する見込みです。その対策として、製造人員を営業へ配置換えする等、営業人員を増加し、既存顧客への営業を第 2 四半期累計期間より強化することへ営業方針を転換し、また受注の可能性がある自動車関連以外の産業へのアプローチ強化や価格帯の変更等による営業戦略の見直しを行い、安定的な受注獲得を目指して参ります。

しかしながら、営業戦略の見直しを実行し、その効果が数字に表れるまで、下期（平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）いっぱい時間を要すると予想されることから、通期の売上高は、当初 1,208 百万円（前年比 21.8%増）を予想しておりましたが、20.6%下回る 959 百万円（前期比 3.3%減）となる見込みであります。

③ C T 事業

平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間における C T 事業では、多業種からの撮像についての需要があり、売上規模は小さいものの概ね堅調に推移し、売上高は、当初 46 百万円（前年同四半期比 19.2%減）を見込んでおりましたが、57.6%上回る 73 百万円（前年同四半期比 27.4%増）となる見込みであります。

また、GE センシング & インспекション・テクノロジーズ株式会社との業務提携による産業用 C T 販売は、現時点で成約に至っておりませんが、数社からの引き合いがあり、下期（平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）に売上となる可能性が高いことから、通期の売上高は、当初 193 百万円（前年比 89.9%増）を予想しておりましたが、60.2%上回る 309 百万円（前期比 204.1%増）となる見込みであります。

（2）営業利益

平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間における当社の営業利益は、当初 73 百万円を予想しておりましたが、94.9%下回る 3 百万円（前年同四半期比 95.6%減）となる見込みであります。

また、平成 29 年 12 月期 通期における営業利益は、当初 221 百万円を予想しておりましたが、95.4%下回る 10 百万円（前期比 92.7%減）となる見込みであります。

その主な要因は次のとおりであります。

平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間においては、企業の持続的成長に不可欠である人材への積極的な投資を実施し、製造部門の増員を図り生産力向上を目指しました。その結果、労務費が前期同四半期比で 19 百万円増、21.5%増となりました。

また、特に鑄造事業においては、平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間を通して、木型工程等一部工程に製作が集中いたしました。その対応策として、顧客の納期対応や各製造工程間のバランスを維持する必要上、外注委託を多用した結果、売上高に対する外注加工費の比率が増加いたしました。

全事業における平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間の営業利益当初予想 73 百万円から今般の修正予想 3 百万円への差額について、主な内訳とその比率は、①売上高減少が 40 百万円で 58.0%、②外注加工費増加分が 25 百万円で 35.8%、③産業用 C T 販売に伴うソフトウェアライセンス販売による仕入原価が 4 百万円で 5.8%をそれぞれ見込んでおります。

また、平成 29 年 12 月期通期の営業利益当初予想 221 百万円から今般の修正予想 10 百万円への差額について、主な内訳とその比率は、①売上高減少が 121 百万円で 57.7%、②産業用 C T 販売等の売上見込追加に伴う仕入原価が 72 百万円で 34.3%、③外注加工費増加分が 20 百万円で 9.8%をそれぞれ見込んでおります。

なお、下期（平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）は、産業用 C T 販売等の売上高を当初予想から増額しており、売上高の当初予想からの減少を緩和するものと見込んでおりますが、一方で C T 装置等の仕入原価も増額を見込んでいることから、営業利益の当初予想からの修正幅が、平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間の修正幅に比して、大きくなる見込みであります。

なお、本業績予想の下方修正を重く受け止め、その経営上の責任を明確にするため、下期（平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）における代表取締役社長及び専務取締役の役員報酬を 25%減額することといた

します。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※平成 29 年 12 月期第 2 四半期決算短信は、平成 29 年 8 月 10 日に開示予定であります。

以 上